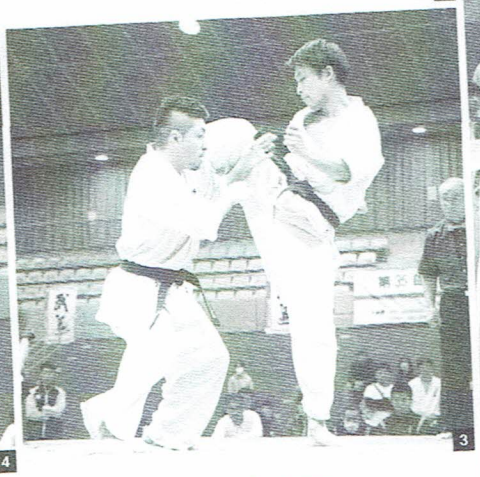
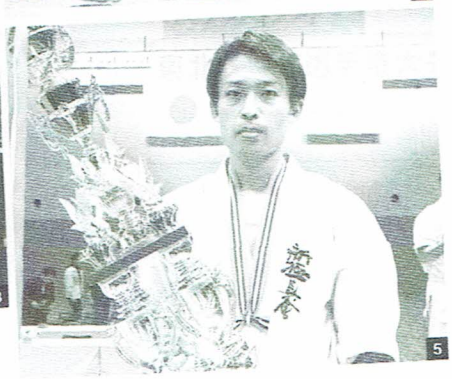
決勝戦
<福島支部> ○橋本直樹 VS <東京城南川崎支部> 入来勇斗×
本戦0-0、延長一本　※上段ヒザ蹴り

第35回
東北 空手道選手権大会

2018年11月4日◎
福島市国体記念体育館

1 橋本の上段ヒザ蹴りがヒット。入来はこの一撃で立ち上がることができず、そのまま橋本の一本勝ちとなった。2 序盤は入来が積極的に攻めていた。3 橋本は再三、ヒザ蹴りで入来の上段を狙うが、入来は巧くかわした。4 本線終盤は入来が左右のステップを使い、橋本の攻撃を封じ込めた。5 初の栄冠となった橋本。東北地区の支部所属選手が優勝するのは12年ぶりのことだ





12年ぶりに東北勢が王座奪還

戦慄のヒザ蹴りが炸裂!! 橋本直樹が一本勝ち初優勝

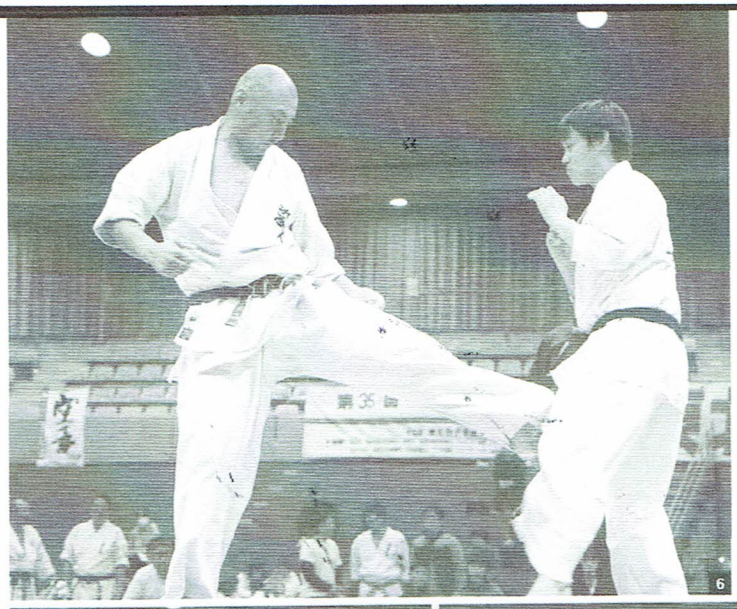
Text & Photos／神田勲

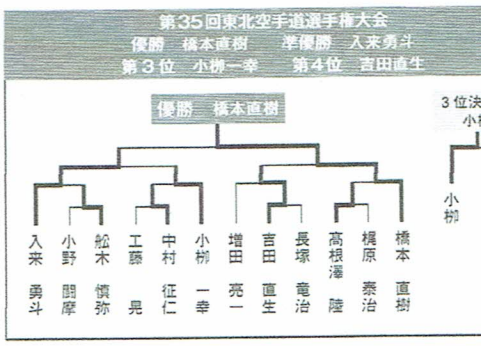
東北地区の強豪選手や、首都圏から参戦した実力者が入り乱れる中、やはり注目を浴びたのは昨年準優勝の橋本直樹と第31回大会で準優勝をはたしている入来勇斗だった。

橋本は初戦となった二回戦、他流派ながら一回戦で地元福島のベテラン・梶原泰治から胴廻し回転蹴りの技有りを奪った高根澤陸と対戦。序盤で高根澤の上段廻し蹴りが橋本の顔面を捕え、ヒヤリとさせられたものの、上段廻し蹴りのお返し。その後、間合いが詰まり、両者が打ち合いになったところで橋本が上段へのヒザ蹴り。この一撃で高根澤は崩れ落ち、そのまま一本勝ちとなった。

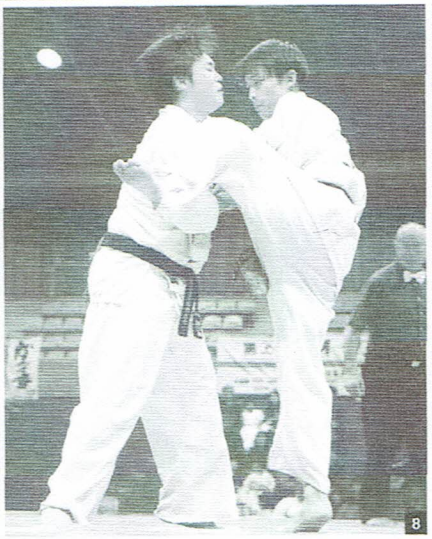
さらに橋本は準決勝戦で川崎東湘南支部の吉田直生と対戦。吉田は二回戦で東北大会連続出場の記録を持つ増田亮一と再延長までもつれる激闘を制し勝ち上がってきた。勢いに乗る吉田に対し、再び橋本のヒザ蹴りが炸裂し、吉田が崩れ落ちる。2連続一本勝ちかと思われたが、掛けてからの攻撃と判定され、注意1となる。だがその後も橋本がペースを握り、3年連続の決勝進出となった。

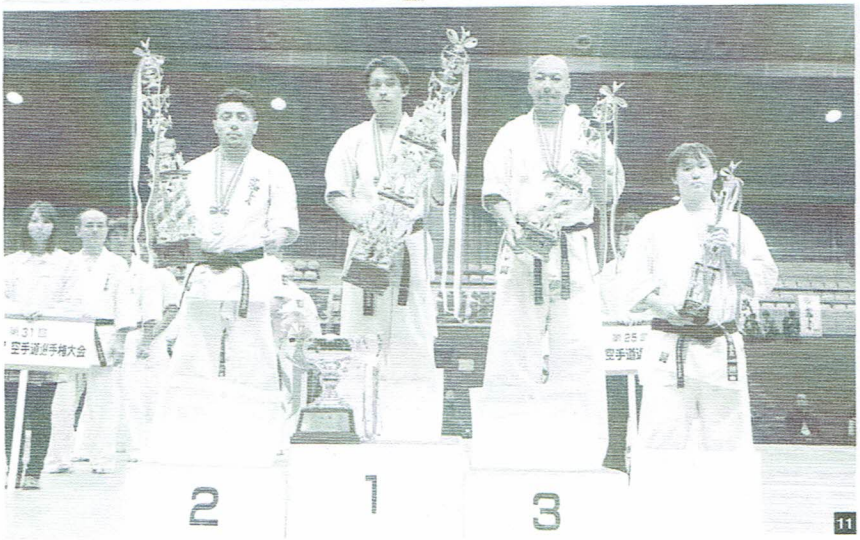
反対側のブロックから上がってきた入来は、初戦となった二回戦で地元の松木慎弥を5-0の判定で下す。続く準決勝では福島支部の小柳一幸と対戦。身長差20㎝、体重差25㎏をものともせず、ステップを使って左右に回り込み小柳を翻弄。5-0の判定で決勝進出を決めた。





6 3位決定戦は小柳が地元の意地を見せ、吉田を破った。7 準決
合。入来が体格に勝る小柳を翻弄し、決勝に進出。8 準決勝第二
本のヒザ蹴りが炸裂するも、掛けてからの攻撃とみなされ注意1。
のリードしていた橋本が決勝進出。9 二回戦でも橋本の上段ヒザ
裂した。他流派の高根澤にみごとな一本勝ち。10 大会常連で福島
テラン・増田は吉田と激闘を繰り広げたが惜敗。11 大会入賞者の集





位決定戦で対戦をしているが、どちらも入来が勝利している。橋本の初勝利なるか。あるいは入来が返り討ちにするのか。緊張感あふれる空気の中、試合は始まった。

体を正面に開き、構える入来に対し、橋本は下段から仕掛ける。だが、打ち合いからの流れで橋本が放った蹴りが入来の金的を捕える。しばらく試合が中断し、橋本に注意が与えられ試合続行。本戦終盤が近づくと、入来が左右の動きと胸への突きで橋本を翻弄する。橋本はヒザ蹴りを放つが不発。やや入来の手数が勝ったかに見えたところで本戦終了。0－0で決着はつかず延長に入る。

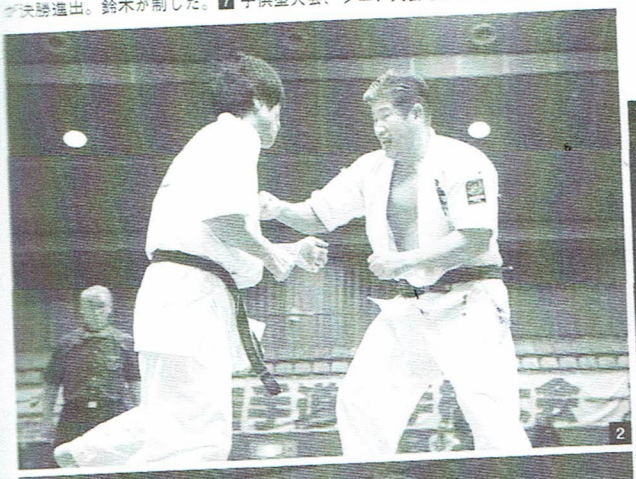
延長に入ると入来の手数が若干減る。橋本の中段突きを捌いた後、ほんの一瞬、入来の集中力が切れる。そこを見逃さなかった橋本が上段へのヒザ蹴り一閃。スローモーションのように崩れ落ちる入来。入来はすぐに立ち上がることができず、橋本の壮絶な一本勝ちとなった。

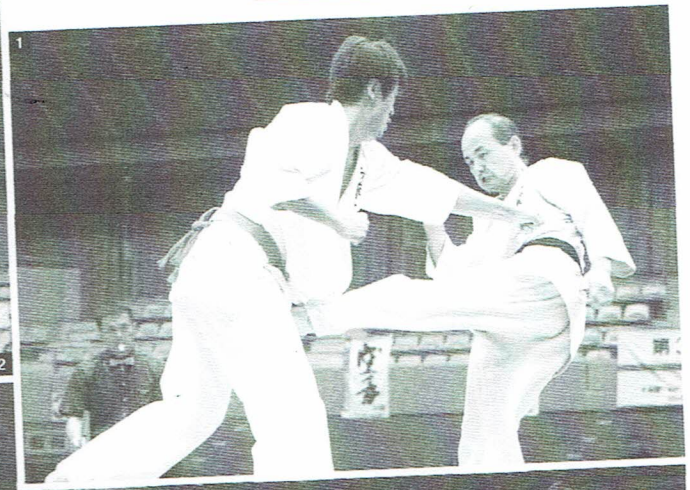
東北の選手が優勝するのは2006年の第23回大会で増田亮一が優勝して以来、じつに12年ぶりのことだ。そのことについて橋本は「(東北勢の優勝を)意識して試合に出ていたのですが、なかなかたどり着けなかったのでうれしいです」と語り、次の目標として来年のJFKO全日本大会への挑戦を表明した。

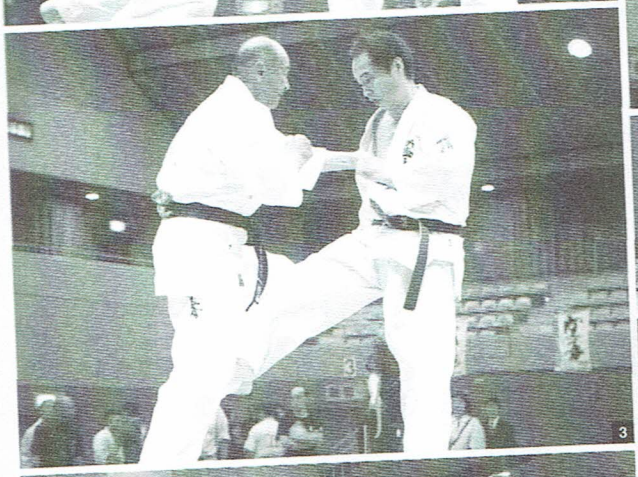
第35回 東北 空手道選手権大会

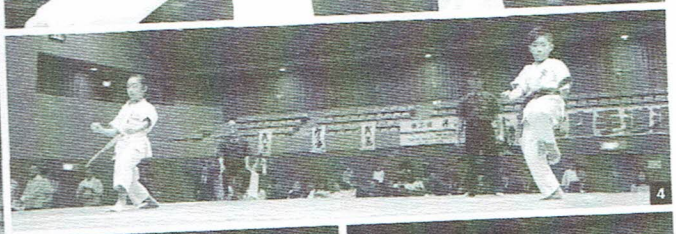
2018年11月4日◎
福島市国体記念体育館

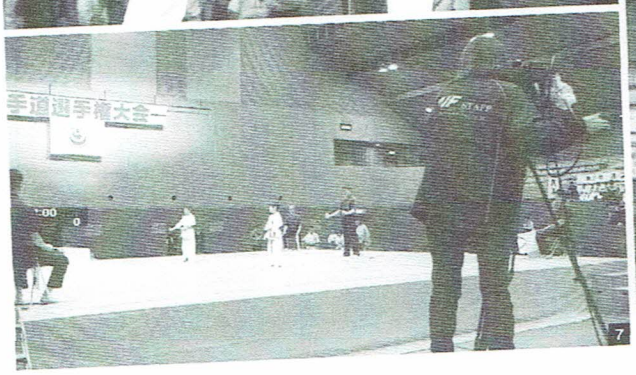
1 ミドルシニアの部決勝は宇田と今の対戦。他流派同士の闘いを宇田が制した。2 シニアの部は前澤と地元の舩木が決勝に進出。前澤が気迫を見せ舩木を破った。3 グランドシニアの部は熊田と古川が決勝に進出。福島支部同士の対戦は熊田に軍配。4 子供型大会は決勝戦も同時に演武を行ない、審判が判定を行なう。5 子供型大会高学年の部は小林陽向と一心の姉弟対決となる。陽向に一日の長があった。6 子供型大会低学年の部は鈴木と大塚が決勝進出。鈴木が制した。7 子供型大会、シニア大会もテレビ中継のカメラが回っていた

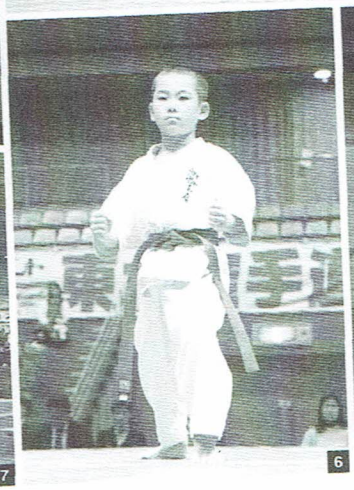












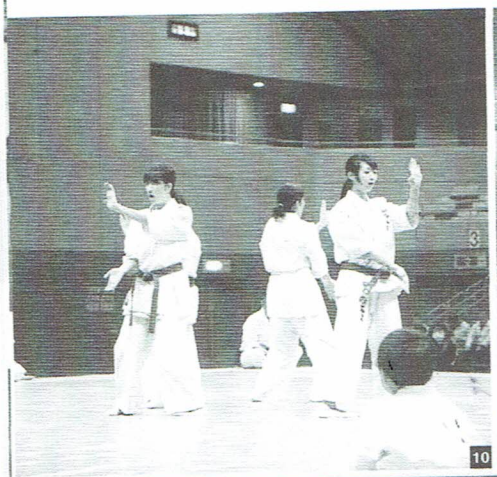
格式の高い会場で同時開催される シニア大会と子供型大会

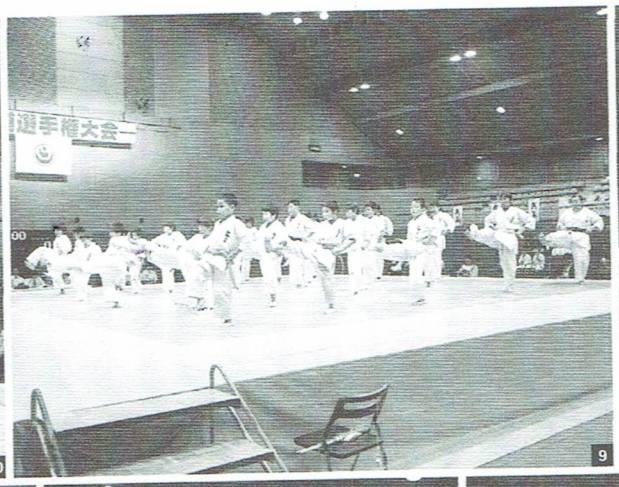
東北大会は他のブロック大会と若干、趣を異にする。東北大会に階級やカテゴリーはない。一般男子による無差別級の試合のみである。試合場も全日本大会と同じように一段高くなった舞台が設けられ、一つのコートで行なわれる。さらに毎年、地元のテレビ局による中継が入るため、明るいライトに舞台が照らされて、大会にはどことなく格式の高さが感じられる。

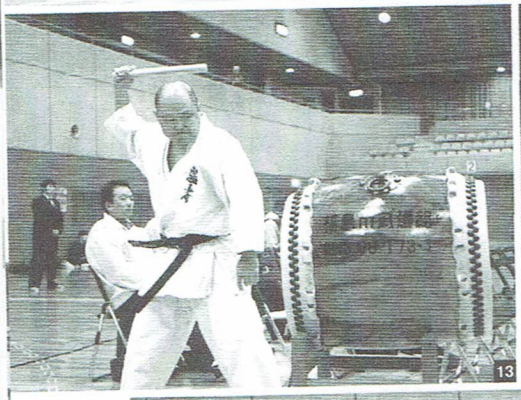
毎年、東北大会と同時に開催されているのがシニア大会と子供型大会だ。これら二つの大会も、東北大会とまったく同じ舞台で試合をする。闘いの場が厳粛に整えられるということは、出場する選手のモチベーションにもつながる。まだ全日本クラスではない新人選手や、シニア・少年部などの選手にとって、この舞台で試合ができることは貴重な体験だ。

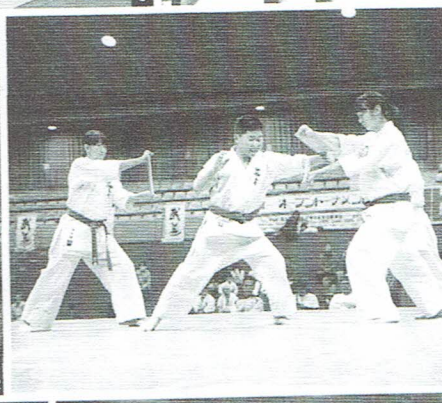
シニア大会は年齢で三つの階級（ミドルシニア＝40～49歳、シニア＝50歳～59歳、グランドシニア＝60歳以上）に分けられているのみで、体重は無差別。ヘッドギアの着用もないため、シニア選手の中には東北大会を目標に稽古を積む選手も多いと聞く。

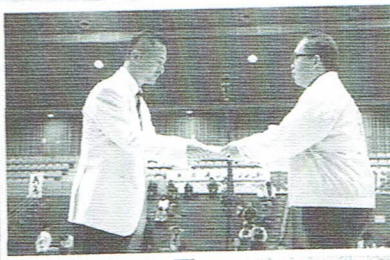
そんな中、ミドルシニアの決勝は宇田豊信と今重人が勝ち上がり、他流派同士の顔合わせとなった。荒々しい攻撃で健闘した今だったが、キャリアの差が出たか、宇田が的確な攻撃で本戦5－0の判定勝利。











8 昨年準優勝の橋本が選手宣誓を務めた。 9 10 元・福島支部の少年部、女子部が演武を行なっ 福島支部・藤中顕武段による居合の演武も行な 会場には張り詰めた空気が流れた。 13 開会太鼓 太鼓を務めたのは福島支部の吉田広明師範代。 14 リティーの贈呈も行なわれた。 15 テレビ解説は 二師範が行なった。 16 東北大会、シニア大会、 大会入賞者と役員の記念撮影

※各クラスの入賞者は 65-69 ページの「RESULTS」に記載

たのは東北地区川崎支部の高橋一 と地元・福島支部会津南分支部長の 舩木彦人。両者ともシニア大会にお いては優勝・入賞の常連。今回は気 合いが入った前澤が終盤に怒涛の突 きを見せ5－0の判定勝ち。

グランドシニアの決勝に上がって きたのは熊田文男と古川幹夫。どち らも地元・福島支部のベテランだ。 還暦を越えてなおフルコンタクトル ールに挑む姿は観る者に驚嘆を与え る。下段への攻撃に一日の長があっ た熊田が5－0の判定勝ち。

そして忘れてならないのが子供型 大会。今回は低学年（小学校1年～ 3年）と高学年（小学校4年～6年） の2階級で行なわれた。試合は予選 と一回戦が太極Ⅲ、準決勝と決勝は 足技太極Ⅰが指定の型となり、緊張 感あふれる熱戦が繰り広げられた。

低学年の決勝は鈴木草太と大塚光 己の対戦となるも、両者甲乙つけが たく、判定は3－2で鈴木が勝利。

高学年の決勝は小林陽向と一心の 姉弟対決となったが、姉の陽向が5 －0で勝利。

最後に三瓶啓二師範は「優勝した 人は困難に負けないようにがんばっ てください。惜しくも優勝を逃した 人は、優勝した人と違う何かがあり ます。それを探ってください。それ が稽古です。優勝できるまでがんば ってください」とすべての選手を激 励し大会の最後を締めくくった。